

新聞記事から見る鈴鹿高専

オールリーダー 目指せ4強



全国高専ラグビー 鈴鹿高専3年ぶり出場

来年1月4日に兵庫県で開催する全国高専ラグビーフットボール大会に、鈴鹿市の鈴鹿高専が3年ぶりに出場する。選手と監督が18日、市役所を訪れ「大会でベスト4を目指す」と健闘を誓った。スローガンは「オールリーダー、日本一変態なチーム」だという。

(西川優)

チームを率いるのは高専の卒業生で、2016年度末に廃部となったラグビー部を入学時に復活させた松本嶺邑監督(23)。2年連続で敗れていたライバルの豊田高専(愛知県豊田市)を相手に35-10で予選を制し、松本監督が当時5年生だった23年以前の全国大会切符を手にした。

スローガンは新チームが発足した1年前にミーティングで決めた。ラグビーに「変態的」な情熱を持ち、部員全員がリーダーとしてそれぞれの得意なことでチームを引っ張る気持ちで練習に励んできたという。

チーム唯一の5年生東川佳樹主将(19)は「自分1人でプレッシャーを感じていたが、みんながチームをまとめないといけないと思う

OBの23歳が監督「変態的情熱」でチーム一丸

てくれている」。途中、就職活動で抜けることもあったが、「士気を落とさずに続けてこられたのはチームメイトのおかげだ」と感謝する。

昨年末にはクラウドファンディングで集まった資金で、新たにグラウンドにポールを設置した。東川主将は「応援してくれる方々の支援をプレーで還元したい」と話し、松本監督も「最終的に3千人の応援に来てもらうことが目標。地域に応援されるチームを目指したい」と活躍を誓った。

スローガンを聞いた末松則子市長は「もう1回言ってる？」と驚きながらも、「苦労してきた分、試合を楽しんで、オールリーダーで1戦1戦を勝ち抜いてきてほしい」と期待した。鈴鹿高専の全国大会出場は16回目。初戦は北海道や東北地方代表の函館高専と対戦する。

全国大会の健闘を誓う松本監督と選手ら。鈴鹿市役所で

独立行政法人国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校
〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町
TEL 059-386-1031 (代表)
FAX 059-387-0338
<https://www.suzuka-ct.ac.jp/>



色々な課題に対応できる人材を

力した。現在は鈴鹿高専の副校長を務める。

下古谷さんは「後になって表彰を受けた実感がわいてきた」と喜びを語り、「多様化する時代でどんな問題があるかわからない。」

将来のいろんな課題に対応できる人材を育てることが大事な役割と感じている」と話した。
(西川優)

文科相表彰 下古谷さん報告 鈴鹿市長に



地方教育行政功労者表彰に選ばれた下古谷さん。鈴鹿市役所で。

地方教育行政功労者として本年度の文部科学大臣表彰を受けた鈴鹿市の元教育委員長の下古谷博司さん(61)が4日、市役所を訪れ末松則子市長に報告した。

下古谷さんは2012年10月、24年9月の12年間で、市教育委員を務めた。14年10月、15年6月は教育委員長にも就いた。市内全小中学校でのオンライン授業開始など教育行政の推進に尽



矢野さんの話を聞く生徒ら＝鈴鹿市白子町の鈴鹿高専で

将来のため金融知識を

鈴鹿高専で授業、注意促しも

百五銀

【鈴鹿】鈴鹿市南江島町の百五銀行白子支店(森昌平支店長)と同市西条四丁目の百五銀行鈴鹿コンサルプラザ(谷水明子プラザ長)は21日、同市白子町の鈴鹿高専で、二年生二百七人を対象にした「将来のための金融教育授業」を実施。百五銀行リテラショナルサルティング部の矢野尚美さんが講師を務め、金融リテラシーについて講義した。次世代を担う若者への

また、クイズを取り入れながら、収支管理の基本やお金のためのコツについても説明。「お金を増やすには複利で運用する」と話した。そのほか、クレジットカードの仕組みや支払い方法ごとの特徴、多重債務や闇バイトなどの金融トラブルについても注意を促した。生徒らは熱心に話を聞いており、生物応用化学科の野寄秀仁さん(も)は「これまでにも家計管理について考えたことはある。正解がないから考える必要があると思った」と話した。

伊勢の野生酵母で濁り酒

鈴鹿高専と岐阜・平田酒造場



鈴鹿市の鈴鹿工業高等専門学校と岐阜県高山市にある老舗酒造「平田酒造場」が、伊勢市内で採取した野生酵母で醸造した純米吟醸濁り酒「白希」を完成させた。地域の天然資源を使って「話題性のある酒をつくりたい」と産学連携で共同研究を始め、今回がその成果となる3作目。27日からECSサイトで販売している。（西川優）

第3弾「白希」発売

「山田錦」や「ひだほまれ」などの酒米をブレンドした白濁り酒で、野生酵母で醸造する製造工程が希（ミラクル）なことから「白希」と名付けた。アル

平田酒造場などによると、酵母は日本酒の味わいや香りを大きく左右する要因の一つで、一般的な日本酒には選り抜かれた酵母が用いられる。一方、実績のない野生酵母は発酵のコントロールが難しく、風味の予測がつかないなど不確定要素が多い。そのため野生酵母を主に醸造させた日本酒は珍しいという。

20日に鈴鹿高専で記者発表があり、鈴鹿高専の今田准教授や伊東真由美技術専門員、平田酒造場の上島憲社長（7人が出席。研究には鈴鹿高専専科（5年課Cサイトから購入できる。

中日新聞 2025年8月28日付 中日新聞社許諾済み

文学が心豊かな技術者を



石谷 春樹さん

鈴鹿工業高等専門学校 教授

1965年生まれ。専門は日本近代文学。「芥川龍之介の作品研究〈告白〉の軌跡」を来年の春に刊行する予定。

高専で文学を教えて20年以上になります。エンジニアを育成するための学校です。私にとってはアウエーの環境です。

学生たちは皆バリバリの理系で、数学などは一生懸命に必死でやっています。文学の授業に対する姿勢は少し違います。ふだん使っている日本語だから言葉は通じる、という感じですが、文学が好きだという学生は、多いわけではありませ

程の3年生も携わっているとい、今田准教授は「長年の研究実績が結実した成果。将来の研究者や技術者の育成にも貢献している」と意義を述べた。

鈴鹿高専出身で、伊勢商工会議所の会頭を務めた上島社長は、33年の伊勢神宮の式年遷宮に向けた取り組みが本格化するのを前に「式年行事の景気付けで飲んでほしい」とPRした。

3作はいずれも「ヒカリ酒販」（伊勢市桶部町）のECSサイトから購入できる。

私はそれが悔しくて、文学は人生に必要なものだろうかと、ということをやすと考えてきました。

学生たちにもいつも言うのは、どんな仕事も、人の気持ちは考えることの積み重ねで成り立っているはずだということです。実学が重

視されて暮らしが便利になるのはもちろん大事なことですが、でも、その裏で人の気持ちに踏みこじられて弊害が起きることもある。

他者の気持ちを知り、人間らしい暮らしを取り戻すための手助けになってくれるのが文学だと思えます。自分が経験しなくても失業した主人公の気持ちになっ

て苦しんだり、中島みゆきが失恋のつらさをわかってくれて安堵したりする。

人の気持ちをくむのが苦手な学生もいるだけに、人は文学なしに生きられないと言いつづけています。「プロポーズだって言葉で、文学だ」と。面白いもので、「君の言葉で、好きな人に響くかなあ」と軽口をたたくと、神妙な顔になる学生もいます。進学や就職

を控えた5年生になると、突然私の研究室を訪ねてきて、志望動機をどう書いたらいいかと相談に来る学生もとても多いです。

文系と理系は対抗する概念だと考えたくないです。パルクしないタイヤを作るために、パルクするタイヤの材質を調べる。好きな人の好みを知りたくて、格闘するのと同じように、どちらも物語があると思うんです。

先日の演習では、学生たちと一緒に「走れメロス」を読み、誰が一番良い人だと思おうか議論しました。約束を果たして戻ってくるメロスに目がいくけれど、人質になってくれた友人セリヌンティウスはどんな気持ちだったのだろう、彼の方が良い人なのでは？と盛り上がりました。

物事はいろんな見方ができるのでも、一面的に見るのはやめよう。工学の研究でもきつと同じだね。そう話してその日は解散しました。文系と理系の間にそびえ立つ壁を壊したい。そう考えて日々奮闘しています。

（聞き手・田玉恵美）

プロコン学生がパソコン甲子園モバイル部門でベストアイデア賞受賞

11月8日・9日の二日間にわたって開催されたパソコン甲子園2025において、プロコンに所属する電子情報工学科3年（当時）の3名が開発したモバイルアプリ「ひだまり」がベストアイデア賞を受賞しました。

今年度のパソコン甲子園は地域創成をテーマに、まち・ひと・しごとを支えるアプリを募集し、全国の高校から計47チームのエントリーがありました。本選では、予選を突破した8チームを対象にアプリのプレゼン審査およびデモ審査が行われました。



「KOSEN 水素ビジョン 2025 in 鈴鹿サーキット」を開催



国立高専機構の大型プロジェクト「GEAR5.0」の一環として、11月22～23日に鈴鹿サーキットで「KOSEN 水素ビジョン2025」を開催しました。SUPER FORMULAと同時期の開催で多くの来場者が訪れ、会場は大盛況となりました。モータースポーツという非日常の舞台上、技術が未来の暮らしにどうつながるかを来場者の皆様に体感していただきました。

具体的には、水素侵入防止膜や非破壊センシング、水素分離膜など脱炭素社会に不可欠な技術を紹介し、子ども向け水素ロケット教室やロボット展示など体験型コンテンツも充実させ、専門家だけでなく一般の方々に水素社会の意義と重要性をわかりやすく伝えることが出来ました。高専ならではの全国連携と「伝える力」を発揮し、地域連携や人材育成の裾野拡大に向けて大きな一歩となりました。

グローバルアントレプレナーシッププログラムで学生がフィンランド訪問

3月1日～8日まで、グローバルアントレプレナーシッププログラムの最終イベントとして、全国の高専から選抜された学生10名がフィンランドのトゥルク応用科学大学およびメトロポリア応用科学大学を訪問し、研修や交流を行いました。

選抜学生には鈴鹿高専の学生3名も含まれており、アントレプレナーシップ教育の先進国であるフィンランドの大学や企業の見学などを通じて、ビジネスマインドやスタートアップの重要性について理解を深める貴重な機会となりました。

